

新潮45

JUNE
2017

6



特集 ■ 私の寿命と人生

俺が死んだら
もう俺を語れる奴はいない

梅宮辰夫

ボクが尊厳死協会に入ったわけ

蛭子能収

「つなぎ融資の女王」山辺節子

カネと男と詐欺の履歴書

上條昌史

緊急対談

小池百合子、偽りの「都民ファースト」

片山善博 × 郷原信郎

特集

私の寿命と人生

梅宮辰夫……………22

俺が死んだらもう俺を語れる奴はいない

黒沢年雄……………27

ガン手術8回の死生観

蛭子能収……………31

ボクが尊厳死協会に入ったわけ

別府倫太郎……………35

14歳、死は常にそこにある

久坂部羊……………39

実際の長生きは苦しい

三砂ちづる……………43

末期ガンの夫を「家で看取る」

大江舜……………46

人間は「使い捨てカメラ」である

田沼靖一……………50

なぜ「死」があるのか 科学者による寿命論

福田ますみ……………58

日本上陸「デスカフェ」って何？

新連載

100歳の肖像

フォトジャーナリスト 笹本恒子

歌代幸子……………64

「つなぎ融資の女王」山辺節子

上條昌史……………80

カネと男と詐欺の履歴書

懲役10年「声優のアイコ」事件

インベ
カラリ★……………88

犯人にされた主人格
「神いっき」からの手紙

CIA文書公開で判明!

「慰安所」はナチの収容所と同一視されていた

有馬哲夫……………74

米国から戻ってきた「吉田松陰の短刀」

楫取能彦……………162

もうひとりのファーストレディ

山口真由……………96

イヴァンカ・トランプ大解剖

林操……………154

TVドラマ「やすらぎの郷」の猛毒

「小池劇場」はポピュリズムの悪魔結合である

小田嶋隆……………246

緊急対談

小池百合子、

偽りの「都民ファースト」

前鳥取県知事 片山善博 × 弁護士 郷原信郎

110

「表紙イラスト」
アラン・ドロン…………… 信濃八太郎

「麗」表紙のひと
アラン・ドロン…………… 3

(写真：ゼータイメージ)
TOKYO2017…………… 8

神宮球場(写真：広瀬達郎)…………… 8

時代の標本
松田コレクションの世界…………… 10

宝塚歌劇 華麗なるレジェンド…………… 10

明日も汽車の中で眠る…………… 6

シベリア鉄道9000キロ
6泊7日の旅が終わるとき…………… 12

デザイン…………… 大野リサ+川島弘世
目次 写真提供…………… 時事通信社



「巻頭随筆」風が時間を

徳岡孝夫…………… 15

人間関係愚痴話

曾野綾子…………… 16

年に1回はCTスキャンと胃カメラ、そして、膀胱の検査に通っています。膀胱の検査は、鉛筆ほどの太さがある内視鏡を「セガレ」の先端から尿道に入れるんです。麻酔をしているから痛みは感じませんが、なんとも言えない気持ちの悪さがありますね……。

ちなみにタバコはとっくの昔にやめ、酒も2年前から断っています。実は、食道がんの手術から2年経っても再発しなかったのでワインを飲んだことがありません。すると、15年にまた食道がんが見つかった。自分への戒めの意味も込めて、以降は一切飲んでいません。

もう一点、大事にしていることを挙げるとすれば神頼みはしないということでしょう。実際、過去のがん手術について公言している僕の元には、民間療法や新興宗教の関係者から「お誘い」を受けることも少なくありません。ご利益のある水を勧められたり、ですね。ただ、そうした申し出はすべて丁重にお断りしてきました。一概に否定するつもりはないのですが、経験上、きちんとした専門医に

診てもらうことが何よりも大事だと身に染みて分かっていくからです。横浜にあるおふくろの墓には月に1度は必ずお参りに行きますが、がんが見つかったも治療の報告をするだけです。

比叡山延暦寺で「お葬式」

これだけがんと向き合い続けていると、自然と死について考える瞬間も多くなりますね。そのせいで達観している部分もある。昔と違っていまは人間的にも丸くなって、虚勢を張ることもなくなった。撮影現場やコンサート会場で誰かと共演しても、僕のほうから楽屋に挨拶に出向くようになりました。共演相手が自分より若くても全く構わない。一方で、この達観には危険な面もあってね。一流の芸人、アーティストには「険がある」わけで、その部分を無くしてはマズいな、とは思っています。

僕は、検査と手術によって治る見込みのあるがんで命を落とすことが「寿命」だとは考えていません。ただ、これまで幸運にもがんと早期に見えてきて、転

てくれる。

僕のお骨のうち半分は延暦寺に納めて、最終的には比叡山に散骨してもらいます。そして、残りの半分はおふくろが眠る墓に納めるつもりです。立派な阿弥陀堂でお葬式まで済ませたわけですが、やはり最後の望みはそこに尽きますね。おふくろから生まれて、おふくろの元に帰るということ。天国のおふくろと会った時に「年男、よく頑張ったね」と言ってくれたら、これ以上の大往生はないと思えます。

45

ボクが尊厳死協会に入ったわけ

蛭子能収

えびす よしかず

1947年長崎県出身。73年に「ガロ」誌でデビュー。著書に「ひとりぼっちを笑うな」「蛭子能収のゆるゆる人生相談」など。

漫画家

僕、死にたくないんです。死にたくないと思いがち、この70年間生きてきたんです。

だって、死ぬのって怖いじゃないですか？ 一度きりの人生なのに、死んだら何もかもなくなっちゃう。70歳にもなる

移もなかったわけですが、今後と同じことが続く保証は何処にもない。もし、改善の見込みがない重篤ながんが見つかったら、その時は静かにこの世からオサラバしたいと思っています。女房にも、「いよいよの時になったら延命措置はしないでほしい。そのかわり、痛み止めのモルヒネはバンバン打ってくれよな」と伝えてあります。

これまでの度重なるがん闘病で、家族や親類をはじめ、色々な人たちに心配を掛けてきたのは事実でしょう。だからこそ、最期くらいは誰にも迷惑を掛けたくないという思いは人一倍強い。延命治療を拒否するのも、寝たきりのままズルズルと生き長らえて家族の手を煩わせたくないからです。同じ理由から、早々に済ませてしまったことがあります。

実は、昨年3月14日に、僕は自分の「お葬式」をあげたのです。場所は天台宗の総本山がある比叡山延暦寺でした。テレビ番組のロケで天台宗の僧侶と知り合い、その方から教わったのが、生前に執り行う「特別永代祠堂」でした。これ

のにジタバタするなよって言われそうだけど、そりゃあ長生きしたいですよ。やっぱ死んだ世界より、生きてる世界の方が楽しそうな気がするんだよね。

子供の頃、地元の長崎で漁師の親父が作ったやぐらによじのぼって、よく星を見てたんです。夏、家にいると暑いからシャツ一枚になって寝ころんで。本当に星がいっぱいだね。

空を見上げてたら、シューッと流れ星が消えていく。今はもうそんなに空を見る機会がなくなっただけで、流れてるのから分らないけど、あれが不思議でたまらなかつたですね。地球みたいに大きな星が、流れて消えていってしまうんです。

それを見てたら、僕の命もあんな簡単になくなるのかなあと、なんだか怖くなった。死んだら何もかもなくなるんだな。だったら死にたくないな、って……。

その頃から、死ぬのが嫌だという気持ちには変わってません。30歳を過ぎて漫画家になったんですけど、死にたくない、殺されたくないから、マンガの中ではやたら人を殺しました(笑)。僕のマンガ



はずぐ人が死んじゃうんだけど、それは生への執着が強いことの裏返しなんですよ。逆をいってるんですよ。

人間、年老いてくると早く死にたいとか、死ぬのが怖くなくなってくるとかいうけど、全然そんなことない。今も死ぬのが怖くて、できるだけ死なないように生きてるつもりです。

危険な仕事だって、もうしたくない。数年前、バラエティ番組のドッキリで怖い思いしたんですよ。ある部屋にドア

今の女房とは雑誌の企画で知り合って、2007年の1月に入籍。今年で10年が経ちました。

いい女房です。……と言っておきます(笑)。20歳近く年下だけど、ちゃんとした考えを持っていて、芯が強いんですよ。いつも怒られます。

これまで僕に自由に生きていきたいと思っていたし、実際そうやって生きてきました。でも、今の女房に出会ってからはちょっと考えが変わってきたんです。ギャンブルが大好きだったけど、最近麻雀も全然してないし、競艇もあんまり行ってない。忙しいというのもあるけど、女房が僕と一緒にいたいって言うてるんです。これまで結婚しても一人

ですよ。「あ、下を見たら大丈夫なんだ」って。床を見れば一緒に回ってるから全然目が回らない。なるほどと思いましたが、さすがにそんな仕事は危険だから、もうやらないようにしています。

たった一度泣いたとき

死ぬのはできるだけ避けているんだけど、そうこうするうち周りの人がどんどん死ぬようになりました。でも、たとえ親しかった人でも葬式に

を開けて入ったら床がトリモチになって動けないんです。困ったなと思ってたら円盤状の床がぐるぐる回り出した。

「わ、すごい！目が回る」。あれは怖かったですね。死ぬんじゃないかと思いました……。ところがしばらく回ってたら、ふと気づいたん

は行きません。人の葬式に行ったらニヤニヤ笑っちゃって怒られるからというのもあるけど(笑)。どういわけか人が死んでもあんまり悲しくならない。全然涙も出ないんです。心が冷たいのかもしれないですね。

そんな僕でもたった一度、涙を流したことがあります。前の女房が肺高血圧症で死んだときです。20代で一緒になって、僕のギャンブル狂いにも文句一つ言わず、本当によくしてくれた女房だったんですけど、彼女が51歳のとき、具合が悪くなって倒れたんです。病院にかけけると既に昏睡状態。意識が戻らないまま2日後に亡くなりました。

葬式では自然と涙が出ました。本当に悲しかったですよ。一生分の涙を流し尽くしたんじゃないかと思うぐらい泣きました。女房とほかの友人の何が違うのかと聞かれてもうまく答えられないけど、それだけ大事な人だったんだと思います。でも、あんまり前の女房のことを話すと、今の女房に怒られるから止めた方がいいな(笑)。

で遊んでることが多かったので、女房孝行みたいのをあんまりしたことがないんですよ。そういうことをやっていかなきゃいけないな、と。

とりつても二人で喫茶店に行くと、のんびりしてるだけ。そんな大したことはないし、色々話をするわけでもありません。でも、楽しいんだよね。喫茶店に行くぐらいで楽しいというのも変な気がするけど、一緒の時間を過ごすことが小さな幸せなんです。向こうはもともと色んな所に連れていけと思ってるかもしれないけど。

いつそのこと殺して

「日本尊厳死協会」に入ったのも、数年

前の女房の一言がきっかけでした。「体が正常に動いてなくて、しゃべることもできない、もしそんな寝たきりの状態になったら、ずっと生きててもしょうがないよね」って女房が話してて、ああ、確かにそうだなと。それで一緒に入会したんです。それまで尊厳死については考えたことがなかったし、深く考えて入会したわけじゃない。実際のこの記事の依頼が来るまで、尊厳死協会に入ってたことすら忘れてたんだけど(笑)、その考え方には賛成ですね。

朴槿恵心を操られた大統領

新聞テレビでは絶対にわからない、青瓦台のプリンセス、洗脳の40年。

大統領の異常事態

- 崔順実は「親友」ではなく、親子二代の黒幕
- 朴正熙大統領暗殺犯の動機に「崔一家問題」
- バイオグラやプラセンタを官邸が公費で大量購入
- セウォル号事件当日も、「独りの食事」に変更なし

金香清

● 定価(本体1350円+税)

文藝春秋

〒102-8008 東京都千代田区紀尾井町3-23
http://www.bunshun.co.jp

わかってるなら薬ももつたいないし、早く死なせてほしいと思つてます。尊厳死協会に入ると会員カードを渡されます。そのカードは、自分がもし病気になるって薬だけで延命治療を続けるような状況になったら、死なせてくださいという意思表示になるんですよ。

僕はとにかく人に迷惑がかかるのが嫌なんです。入院が長引いたら家族も看護師さんの手も煩わせますし、なるべく周りに迷惑をかけずに死にたい。だから尊厳死がいいというのがあります。

ただ実際、そのときが来ないと分からない部分もありますよね。

もし女房が寝たきりになって尊厳死を選択するような状況になったら、どうすればいいか迷うだろうなあ。尊厳死を望んでいると言つても、死んでしまうわけだから……。でも「決めたことなんだからその通りにしないとダメでしょ！」って女房に怒られそうなので、あっさりあの世にいつてもらうかもしれません。今のところはできると思つてますけど、そのときが来ないとなんとも言えないです

ね。

でも、また女房を看取るなんて嫌ですよ。勝手な考えかもしれないけど、できれば先に死にたい。最期は女房にベッドの横にいてほしい。「今日忙しいからダメ」って言われるかもしれないけど(笑)。いてくれたらありがたいですね。

植物状態にある人でも、死ぬときには怖いって思うものなのかな？僕は人の迷惑にもなるし、本当にそうだったらどうにかしてほしい、いつそのこと殺してほしいです。でもいざ管を抜かれそうになったら急に元気になるって逃げ出したりして。

人生最後の日は競艇

実は最近、忘れっぽくなってきたんですよ。だから今、必死に抵抗してるんです。ときどきこうやって、両手別々の動きをする練習をしています。左で三角、右で四角を描くように手を動かす。脳に良いらしいですよ。あれ、うまくいかないな。久しぶりにやったから忘れちゃいましたね。

ですね。あ、あんまり言うとマズいな、これは。

人生最後の日は、競艇に行こうと思つてます。財布は女房が握ってるからあんまり多くは賭けられないので、とりあえずポケットに入ってる金を全て賭けます。そうしてポックリ死ねたらいいけど、もし病気で寝たきりの状態になるようなことがあったら延命治療は要りません。早く死なせてください。でも女房が尊厳死協会の会員カードを隠したりして(笑)。それはそれで僕と一緒にいたいってことだから嬉しいかもしれないなあ。

45

14歳、死は常にそこにある

別府倫太郎

べっふりんたろう

2005年、新潟県十日市生まれ。学校に行っていない中学生。5歳で全身性脱毛症、7歳で小児ネフローゼを発症。文筆家

本年、「別府倫太郎(文藝春秋)」を刊行。

死は

私を均等に

保つてくれる

海にしずんだ

元気で生きてても、呆けてしまつて何にもわからない状態というのはどうかなと思えますね。そうなつたら早く死んだほうがいいかもしれない。呆けてしまった上に病気になるたらどうなるんですかね。あんまり想像したくないです。ゴミ箱に捨てられたりして……。

一番いいのは元気で頭もはっきりしているときに安楽死することですよ。日本では禁じられてるけど、できることなら安楽死したい。好きな音楽を聞きながら眠るようにして死ぬんですよ。いいですね。そういう方法で死にたいな。まあ音楽はあんまり好きじゃないんだけど。

僕が死んだら、葬式なんか金はかけなくていい。意識もなくなつてどうせ分からないから、棺桶に何も入れなくていいし、僕の骨もぐちゃぐちゃにしてくれていい。海に捨てても、食べてくれてもいい(笑)。もう僕は怒ることもできないし、関係ないですから。あとは生きてる人だけが幸せになってくれればいいんですよ。

いかりみたいなものだからたゆむことなく待ち構えることもなく死は常にそこにある

死がある所に力は働かず私の肌にとつと触れてくる

死のまわりに私の感情はあり死に突き動かされて私の感情は常にうごめいている

死は静かな力を持って私に問いかけている

死のことを考えると生気が私の元に戻ってくる

夜のことを考えてやがて朝が訪れるように私は死ということを考えて

生きている

死は常にそこにある

死は常にそこにある

死は常にそこにある

死は常にそこにある

死は常にそこにある